

いの森」や、地域住民や民間団体等と合意形成を図りながら、協働・連携して地域や森林の特色を活かした森林整備・保全活動を実施する「モデルプロジェクトの森」を設定しており、令和6(2024)年度末時点で、それぞれ111か所、11か所となっている。

また、企業の社会的責任(CSR)活動等を目的とした森林づくり活動へのフィールドを提供する「社会貢献の森」、森林保全を目的とした森林パトロールや美化活動等のフィールドを提供する「多様な活動の森」を設定しており、令和6(2024)年度末時点で、それぞれ147か所、85か所となっている(事例IV-6)。さらに、分収林制度を活用し、企業等が契約者となって社会貢献や社員教育、顧客とのふれあいの場として森林づくりを行う「法人の森林」も設定しており、令和6(2024)年度末時点で455か所となっている。

このほか、歴史的に重要な木造建造物や各地の祭礼行事、伝統工芸等の次代に引き継ぐべき木の文化を守るため、「木の文化を支える森」を設定しており、令和6(2024)年度末時点で22か所となっている。

事例IV-6 「社会貢献の森」での森林整備によるサケの遡上環境の保全

新潟県村上市を流れる三面川は、古くからサケが多く遡上する川として知られている。三面川の良い遡上・産卵環境を保全して未来の子供たちに引き継いでいくことを目的に平成11(1999)年に設立された「さけの森林づくり推進協議会」では、上流部の森林整備を進めるため、平成12(2000)年に下越森林管理署村上支署と「社会貢献の森」協定を締結し、三面川源流域の国有林野を「さけの森林」に設定した。

令和4(2022)年度には新たに33.49haを「さけの森林」として設定し、村上市の交流都市である東京都荒川区とも連携しながら、毎年「さけの森林づくり活動」を行っている。令和7(2025)年10月には、「第26回さけの森林づくり活動」が行われ、地域の小学生や住民に加え、荒川区内の小学生や保護者も活動に招き、さけの森林づくりのため、ナラ、ヤマザクラ、クリ、トチ等の広葉樹の植樹等を行った。また、森林整備に対する参加者の理解を醸成するため、枝打ち体験のほか、チェーンソーによる間伐やプロセッサによる造材の実演などを実施した。参加者からは「枝打ちが楽しかった」「とても充実した内容で勉強になった」など、好評を得ている。

今後も関係者間の連携により、森林整備の必要性等を地域の子供たちを始めとする幅広い参加者に伝えられるよう取り組むこととしている。



第26回さけの森林づくり活動



指導を受けながら植樹を行う様子